特色 2

多面的・多角的に日本の歴史を捉えるさまざまな工夫

さまざまな視点から歴史を見ることができる「地域史」・「人物史」

特設ページ「歴史を探ろう」

当時の社会を地域の視点から見ることで、日本の歴史を多面的に捉えられるようにしています。

本文で学んだことを具体例を通じて深める「学習テーマ」

歴史を探る動機となる「疑問」

本文で学んだことと地域を結びつける「関連ページ」

↑p.216-217

「疑問」にわかりやすく答える「解説文」

歴史を探ろう 掲載ページ一覧（全11テーマ）

ページ	タイトル
p.82-83	東アジアに開かれた窓口　博多
p.132-133	琉球とアイヌ民族の暮らし
p.142-143	昆布ロードと北前船
p.154-155	世界有数の百万都市　江戸
p.192-193	世界に開かれた港　横浜
p.198-199	移住と開拓が進む北海道

ページ	タイトル
p.216-217	「絹の道」と日本の製糸業
p.246-247	発展する産業都市　大阪・神戸
p.260-261	長野県から見る満州移民
p.268-269	戦場となった沖縄
p.286-287	日本の領土画定と近隣諸国

コラム「地域史」

本文と関連付けながら、地域から日本の歴史を捉え直しています。

↑p.112　↑p.148

地域史 掲載ページ一覧（全16テーマ）

ページ	テーマ
p.33	上野三碑にみる渡来人の影響
p.55	蝦夷と東北の支配
p.74	仏教の隆盛を伝える「鎌倉大仏」
p.80	北と南を襲ったもう二つの蒙古襲来
p.100	各地に広がった文化
p.112	鉄砲づくりを支えた堺と国友
p.113	世界の銀を支えた石見銀山
p.125	鳥取藩の参勤交代

ページ	テーマ
p.140	日光東照宮と街道の発達
p.148	財政改革に成功した米沢藩
p.180	函館と那覇のペリー来航
p.189	士族の救済事業となった安積開拓
p.201	多摩地方の自由民権運動
p.215	近代化を支えた石炭と八幡製鉄所
p.215	京都の近代産業育成と伝統保護 NEW
p.287	小笠原諸島の返還

「人物コラム」「人物さくいん」

為政者だけでなく、地域で活躍した人など、**さまざまな立場の人々**を「人物コラム」で紹介しています。巻末には、おもな**人物のさくいん**を掲載しています。（全311名）

←p.197

↑p.297

↑18『サザエさん』　原作は4コマ漫画です。

「人物コラム」一覧（全49名）

＊太字：新しく追加された人物

章（時代）	人物
第２章（古代）	孔子、シャカ、イエス、ムハンマド、鑑真、菅原道真、最澄、空海
第３章（中世）	平将門、源義経、足利義満、雪舟
第４章（近世）	千利休、天草四郎、徳川綱吉、高田屋嘉兵衛、松尾芭蕉、**伊能忠敬**
第５章（近代前）	ワシントン、ナポレオン、マルクス、ビスマルク、高杉晋作、大浦慶、吉田松陰、福沢諭吉、江藤新平、西郷隆盛、大久保利通、**天川恵三郎**、島義勇、伊藤博文、渋沢栄一、正岡子規
第６章（近代後）	ウィルソン、ガンディー、原敬、与謝野晶子、平塚らいてう、山川菊栄、宮沢賢治、山口淑子、蔣介石、毛沢東、斎藤隆夫
第７章（現代）	吉田茂、湯川秀樹、**長谷川町子**、**中村哲**

特色 2

多面的・多角的に日本の歴史を捉えるさまざまな工夫

中央の歴史だけでなく地方の歴史も重視した「琉球とアイヌ民族」

琉球とアイヌ民族の歴史を古代から現代まで一貫して取り上げています。
豊富な資料や因果関係のわかる本文で丁寧に解説しているため、
それぞれの文化や周辺地域との関わりについて深く理解できます。

琉球とアイヌ民族に関する地図

琉球・アイヌ民族の歴史を地図で確認できるようにしています。

琉球とアイヌ民族の交易路
アイヌ民族の交易路
香辛料・鼈甲・漆器
琉球王国
中国・東南アジア・日本の船でにぎわう
本島人（琉球人）と日本人の家あり
中国人の家あり
琉球国は南海の諸地にして　三韓（韓国）の男を集め
大明（中国）をもって輔車（ほお骨と歯ぐきのように密接な関係）となし
日域（日本）をもって唇歯（唇と歯のように密接な関係）となす
この二つの中間にあって　湧出する蓬莱の島（仙人の住む理想郷）なり
舟楫をもって（船を通わせて）　万国の津梁（橋け橋）となし
異産至宝は十方刹に充満す…
琉球王国と日本・中国・東南アジアとの交易
琉球とアイヌ民族の交易路
琉球王国
日本
中国
朝鮮
琉球王国
日本・琉球
琉球・薩摩
琉球・中国
琉球・朝鮮
琉球・東南アジア
琉球・日本
琉球・琉球
琉球・琉球
琉球・琉球

特色 2

多面的・多角的に日本の歴史を捉えるさまざまな工夫

政治史だけでなく伝統文化への関心を高める「文化史」

文化史のページでは、各時代の代表的な文化を**大きな図版**で紹介し、
伝統文化への関心を高められるようにしています。
本文やタイトルから**文化のおもな担い手や特色**がわかるようにすることで、
その時代の文化の特色を捉えやすくしています。

文化史 掲載ページ一覧（全10か所）

ページ	タイトル
p.44-49	大陸の影響を受けた天平文化
p.56-59	唐風から日本風へ変わる文化（国風文化）
p.72-75	武士や僧侶たちが広めた鎌倉文化
p.98-101	庶民に広がる室町文化
p.120-123	戦国大名と豪商が担った桃山文化
p.144-145	上方で栄えた町人の元禄文化
p.150-153	江戸の庶民が担った化政文化
p.220-223	欧米の影響を受けた近代文化
p.242-245	近代都市に現れた大衆文化
p.294-297	大衆化・多様化する戦後の文化

文化の特色がわかるタイトル
タイトルから、文化のおもな担い手や特色がわかるように工夫しています。

文化が生まれた背景がわかる本文
化政文化が生まれた背景には、社会の安定と経済の発達により豊かになった庶民の存在があったことがわかります。

↑1 伊勢参り　庶民の自由な旅行は原則禁止されていましたが、寺社への参詣という名目で各地をめぐる旅をすることができました。なかでも伊勢神宮は一生に一度は行きたい庶民の憧れでした。この絵には、60年に一度しかない、とてもご利益のある「おかげ年」の様子が描かれていて、参詣でる人でとてもにぎわっていることがわかります。［歌川（安藤）広重作『伊勢神宮 宮川の渡し』神奈川県立歴史博物館蔵］

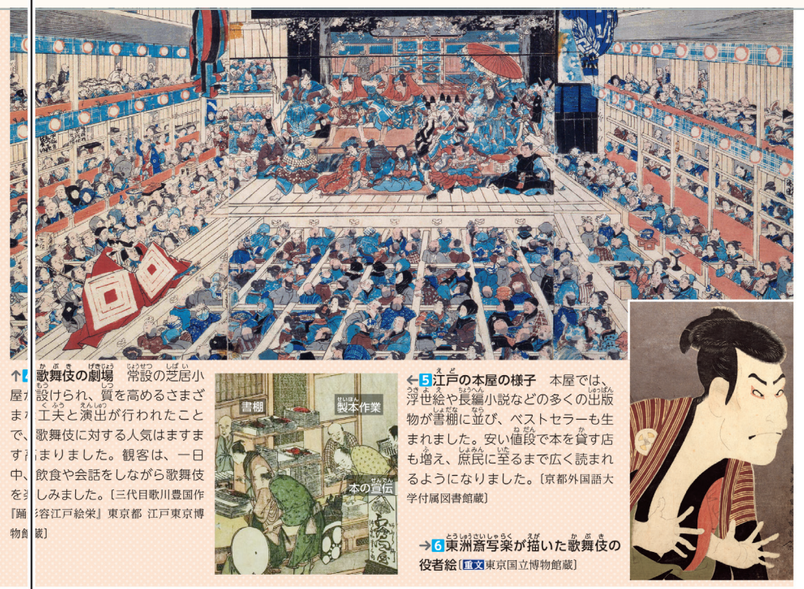
江戸っ子を夢中にさせた娯楽と浮世絵

↑2 相撲の取り組み　相撲は、初め朝廷の年中行事でしたが、江戸時代になると、大名が支援するお抱えの力士たちを競わせるようになりました。その後、興行が定期的に開催されたことで、庶民の娯楽として人気を得ました。相撲を職業とする人々も現れ、信濃（長野県）出身で松江藩（島根県）お抱えの雷電など、人気力士も誕生しました。［歌川（安藤）広重作『東都両国回向院境内相撲の図』］

歴史プラス　江戸の人々の盛り場となった火除地

江戸は木造家屋が密集し、火災が発生すると被害もすぐに拡大しました。幕府は火災の拡大を防ぐため、火除地とよばれる、建物を設けない広場を町のあちこちに置きました。特に橋は避難ルートとして重要な場所なので、橋のたもとには大きな広場ができました。広場には、仮設の小屋が建てられて興行などが開催され、飲食や物の売買ができる繁華街になりました。

↓3 両国橋で行われた花火大会［葛飾北斎作『江都両国橋夕涼花火之図』神奈川県立歴史博物館蔵］



↑2 歌舞伎の劇場　常設の芝居小屋が設けられ、質を高めるさまざまな工夫と演出が行われたことで、歌舞伎に対する人気はますます高まりました。観客は、一日中、飲食や会話をしながら歌舞伎をしみました。［三代目歌川豊国作『踊子江戸絵栄』東京都 江戸東京博物館蔵］

←5 江戸の本屋の様子　本屋では、浮世絵や長編小説などの多くの出版物が書棚に並び、ベストセラーも生まれました。安い値段で本を貸す店も増え、庶民に至るまで広く読まれるようになりました。［京都外国語大学付属図書館蔵］

→6 東洲斎写楽が描いた歌舞伎の役者絵［東文 東京国立博物館蔵］

3 江戸の庶民が担った化政文化

5節の問い　なぜ幕府はさまざまな改革を行ったのだろうか。

↑1 幕府は、貨幣に含まれる金・銀の量を減らすことで、貨幣の量を増やしていました。

狂歌
白河の清きに魚も住みかねて
もとのにごりの田沼恋しき

川柳
これ小判たった一晩いてくれろ
孝行のしたい時分に親はなし

俳諧
春の海ひねもすのたりのたりかな
菜の花や月は東に日は西に
行く春や重たき琵琶の抱きごころ
与謝蕪村

われときて遊べや親のないすずめ
雪とけて村いっぱいの子どもかな
小林一茶

「白河」は白河藩（福島県）の藩主であった松平定信を、「田沼」は田沼意次のことを指しています。

学習課題　江戸時代後半には、どのような特色をもった文化が展開したのだろうか。

庶民による化政文化

田沼意次による、経済の中心を江戸に移す政策に伴い、文化の中心も上方から江戸に移りました。このころ、貨幣の改鋳によって多くのお金が回り、大飢きんも起こらなかったため、裕福な町人だけではなく庶民も、手にしたお金で娯楽を楽しむようになりました。19世紀初めの文化・文政期を中心に花開いた、江戸の庶民による文化を**化政文化**といいます。

歌舞伎はさらに人気を集め、落語を楽しむ寄席や相撲が庶民にも広く親しまれました。また、幕府の政治や庶民の生活を風刺してよむ川柳や狂歌が流行し、俳諧では情景を巧みに表現した与謝蕪村や農民の感情をくみとった小林一茶らが評判を得ました。

印刷技術の発達を背景に、浮世絵のなかに錦絵とよばれる多色刷りの版画が登場し、歌舞伎の人気役者を描いた東洲斎写楽や美人画を描いた喜多川歌麿らが活躍しました。町人だけでなく、生活にゆ

史料 p.141　史料 p.144　史料 p.144　p.144　p.148　p.144　p.145

縄文　弥生　古墳　飛鳥　奈良　平安　鎌倉　南北朝　室町　戦国　安土桃山　江戸　明治　大正　昭和　平成　令和

↑p.150-151